

堀口純子(1988)「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」

日本語教育, 64号, 13-26

[まとめ]

① 相づちの機能

聞いている 理解 同意 否定 感情表出

② 相づちの形態

相づち詞：「はい」「ええ」「そうですね」などの短い上記機能の短い表現

- ・ 品詞はさまざま ・ 個人や場による多様性
- ・ タイミングやイントネーションにより妨害となる可能性

繰り返し：話し手のことばの繰り返しも機能の点から相づちととらえる

- ・ 話すべて、単語のみなど場面による変化
- ・ 話し手の伝達意図と一致→意図通りに進めやすい
- ・ 話し手の伝達意図と一致せず↓
 1. 聞き手の反応に関係なく話し手の初めの意図通りに話を進める
 2. 聞き手の繰り返しに対して簡単に応答してから、始めに意図した話に戻る
 3. 聞き手の繰り返しで話題を変更し、始めに意図した話に戻る
 4. 聞き手の繰り返しで話題を変更し、始めに意図した話に戻らない
- ・ ムードを表す二次形式の繰り返しもある (ダロウ, カモシレナイ…)

言い換え：機能の点で相づちととらえる

- ・ 話し手の話した内容を聞き手が自分の言葉で表現する
- ・ 部分的言い換え > 全体的言い換え
- ・ ムードの二次形式でも類似した意味の場合に言い換えが可能

③ 先取り

聞き手が話の続きを予測できたときにそれを伝える信号を送ることがある

先取り完結：予測したことを話し手が言う前に聞き手が言う

先取り相づち：予測した内容に基づいて相づちを先に打つ →複雑な展開？

ネイティブスピーカーの予測は相当正確だが一致しないことも→要 話し手の訂正

④ 確認

聞き取れない 分からない内容がある 自分の聞き取りが正しいか →確認

聞き手の確認で話し手は聞き手の理解を判断

⑤ 終わりに

日本語教育で聞き手の言語行動は最近注目され始めた 機能と形態の整理の必要

相づち, 先取り, 確認のほかにも 応答, 助け, 質問, 展開, 転換などもある

聞き手の言語行動の分析→学習者のコミュニケーション能力の向上